

プレス発表資料

平成24年1月13日
独立行政法人 防災科学技術研究所

「第2回 e 防災マップコンテスト」審査結果を発表

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）主催で平成23年11月30日（水）まで作品を募集した「第2回 e 防災マップコンテスト」について、35グループの応募があり、防災に関わる学識経験者等による審査会で厳正な審査を行った結果、最優秀賞ほか受賞団体が以下の通り決定いたしました。

最優秀賞 星崎学区連絡協議会（愛知県名古屋市南区）

優秀賞（審査員特別賞） 311 まるごとアーカイブス釜石事務局（岩手県釜石市）

優秀賞 かめやま防災ネットワーク（三重県亀山市）

社団法人東京青年会議所板橋区委員会（東京都板橋区）

流山新市街地地区安心・安全まちづくり協議会（千葉県流山市）

浜松兎亀乃会（静岡県浜松市）

最優秀賞は、マップづくりの過程で様々な主体と協力し、地域に即した実践的な水害対策に資する点が高く評価されました。審査委員特別賞は、災害アーカイブ活動と連携した東日本大震災における被災者の証言に基づいたマップで、今後の津波避難の見直しに役立つ点が、高く評価されました。なお、詳細な作品紹介・講評などは、後日、当コンテストのwebサイトにて発表します。

◆第2回 e 防災マップコンテストwebサイト

<https://bosai-contest.jp/emap2011/>

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会

【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所
社会防災システム研究領域
リスク研究ユニット
長坂、須永
電話：029-863-7546

【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所
アウトリーチグループ
佐竹、松宮
電話：029-863-7783
FAX：029-851-1622

「第2回 e 防災マップコンテスト」 審査結果を発表

1. はじめに

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、「第2回 e 防災マップコンテスト」において厳正なる審査を行い、受賞作品を下記「2. 受賞者一覧」の通り決定しました。多数のご応募、ありがとうございました。

2. 受賞者一覧

最優秀賞 星崎学区連絡協議会（愛知県名古屋市南区）

優秀賞・審査員特別賞 311 まるごとアーカイブス釜石事務局（岩手県釜石市）

優秀賞 かめやま防災ネットワーク（三重県亀山市）

社団法人東京青年会議所板橋区委員会（東京都板橋区）

流山新市街地地区安心・安全まちづくり協議会（千葉県流山市）

浜松兎亀乃会（静岡県浜松市）

最優秀賞は、マップづくりの過程で様々な主体と協力し、地域に即した実践的な水害対策に資する点が高く評価されました。審査委員特別賞は、災害アーカイブ活動と連携した東日本大震災における被災者の証言に基づいたマップで、今後の津波避難の見直しに役立つ点が、高く評価されました。なお、詳細な作品紹介・講評などは、後日、当コンテストの web サイトにて発表いたします。



図1 最優秀賞 星崎学区連絡協議会の作品

子ども会や民生児童委員、消防団員など多様な主体と協力して活動していること、作成したマップを使って図上訓練を実施している点などが高く評価されました。



図2 審査員特別賞 311 まるごとアーカイブス釜石事務局の作品
東日本大震災の被災者自身が、様々な被災者に避難行動をインタビューした結果を
マップに表現。今後の津波避難の検討に資する点が高く評価されました。

3. コンテスト及び審査の概要

e 防災マップコンテストでは、インターネットを使ったマップ作成システム「e コミマップ(次ページ参照)」を利用して、地域の防災資源や危険個所、災害時の対応や日頃の防災活動の計画などの対策を描いた、地域固有の防災マップを応募しました。審査では、出来上がったマップ自体の評価だけではなく、マップ作りを通じて防災活動の見直しや災害時の対応体制の再構築など、地域のさまざまな絆が見直されたり新たに形成されたりする過程や結果も評価しました。

◆作品応募期間	平成23年4月1日(火)から11月30日(水)まで
◆参加数	35グループ
◆審査	防災に関わる学識経験者等による審査委員会(委員長:今村文彦東北大学大学院教授)にて厳正な審査を行い決定しました。審査の視点については、コンテストwebサイトに掲載されております募集要項をご参照ください。
◆Web ページ	https://bosai-contest.jp/emap2011/

4. 受賞作品及び講評について

詳細な受賞作品の紹介と講評は、後日、コンテスト web サイトにて掲載いたします。

第2回 e 防災マップコンテスト web サイト
<https://bosai-contest.jp/emap2011/>

コンテストの開催概要についても上記 web サイトをご参照ください。

5. e コミマップについて

インターネット上にある様々な地図データを国際標準の形式に対応することで、一つの画面に様々な地図データを重ねて表示することができます。このような仕組みを「相互運用環境」と呼んでいます。e コミマップは、その相互運用環境に柔軟に対応可能であり、様々な機関が公開するハザードマップや各種のマップを重ねることができるインターネット上のマップシステムです。また、まちあるきを行うための地図印刷機能や、携帯電話による情報の追加機能があります。マップへの情報の追加は、マウスをクリックするだけで簡単に行うことができます。このシステムは、防災目的だけでなく、環境分野など様々な場面で活用が可能です。また、オープンソースで公開しており、誰もがe コミマップを使って新たな開発を行うことや、機能を追加することができます。東日本大震災においても、初動段階での情報共有を行った ALL311 (<http://all311.ecom-plat.jp/>)、宮城県災害・被災地社協等復興支援ボランティアセンターでの情報発信・共有 (<http://msv3151.c-bosai.jp/>)、震災とその復興過程のアーカイブする 311 まるごとアーカイブ (<http://311archives.jp/>) など、e コミマップを活用して災害対応、復興支援が行われております。



図3 第1回 e 防災マップコンテスト作品例 (we ♥ Sengen グループ)

(図3) 第1回 e 防災マップコンテストの作品

左図は、災害時に協力していただく地元事業者を示したマップです。コンテスト参加者が、避難所の備蓄が少ないことを課題として、災害時における物資提供などの協力を地元事業所に要請しました。各事業所がどのような協力が可能か、まとめた地図です。

また、市町村作成の「建物倒壊危険度マップ」の上にコンテスト参加者が情報を入力することで、物資などを安全に運ぶルートを描くことができます。

(図4) 被災地での活用

東日本大震災では、被災地外からの支援で、e コミマップが活用されています。行政やボランティアセンター、自衛隊など、さまざまな方々が、情報共有や今後の活動の検討などの場面でe コミマップを活用しています。



図4 被災地での e コミマップの利用 (上：気仙沼市、右：石巻市)